

# 女性教職員活躍事例集Ⅱ

～管理職への道のりと伝えたいメッセージ～

## 北海道札幌東陵高等学校 相馬副校長



### Q お伝えしたいメッセージをお願いします！

私たち管理職が生き生きとやりがいのある姿を学校現場で見せることができれば、管理職のなり手がもっと増えていくと思っていますが、今は家庭事情などを配慮していただける環境にあると思いますので、能力をお持ちでやる気のある方は、是非、積極的に管理職にチャレンジして欲しいと思っています。

### Q 管理職を志した理由やきっかけは？

尊敬していた校長先生との出会いがなければ、管理職の道へ進むことはなかったと思います。校長先生の勧めで「女性教職員を対象としたミドルリーダー養成研修」に参加し、その後、学校運営の一つに大きく関わる新たな経験になると考え教務部長になりましたが、管理職の大変さや2人の子どもの子育て中でしたので、その時は「自分が管理職として相応しい働きができると思えません」とお伝えしました。

その学校での勤務年数が長くなっていましたので、私は教諭として転勤を考えていましたが、校長先生が「私の将来にとって何が一番いいか？」を深く考えてくださり、この道に進むことを勧めていただいたのだと、私は感じています。

### Q 管理職として子育てを始める職員に対し気をつけていることは？

育児と仕事の両立でかなり追い込まれていた時に、子育てを卒業した大先輩の実習助手の女性の先生に「今は思うように仕事ができなくても、あなたが育児から離れて思うように仕事ができるようになった時に、その学校で「恩返し」ができればいいんだから、今は子どものことを優先しながら仕事をしていきなさい」と言われ、心の支えになりました。

今も育児に従事し、育児と仕事の両立の大変さはわかっていますので、子育て中の職員の気持ちに寄り添うように努めていきたいと思っています。また、子は社会の宝なので、みんなで育てていくという意識を職場が醸成していかなければならないと思いますので、そのことは先生方に伝えていきます。

### Q 管理職になるために必要だった支援は？

当時の家庭状況は、下の子どもが高校受験を控えていましたし、夫は単身赴任で私がほぼ子育てに従事している状況でしたので、仕事と家庭の両立を図れる勤務地に配慮していただいたことは、とても有り難かったです。

### Q 管理職になって気づいたことは？

学校運営の膨大さや、様々なことに支えられ学校運営が進められていることを、管理職になって初めて知りました。また、自分が今まで多くの方々に支えられていたことにも気づきました。

### Q 管理職のやりがいや魅力は？

自分の成長に繋がる素敵な出会いが多く、それにより自分を客観的に認識することができて、自分の成長に繋がっていると感じていますし、その点が魅力だと思っています。

### Q 後輩教職員へのメッセージは？

私は「取り掛かれば心が燃え上がり、続けていれば仕事は完成する」というゲーテの言葉が好きなので、いつもそう思いながら仕事をしています。

「全ては生徒のために」私たちは仕事をしていますので、それを合言葉に共に支え合いながら進んでいけたらいいなと思っています。

次ページから  
インタビューの全文を  
掲載しております！  
是非御覧ください！

### 1・管理職を志した理由やきっかけを、お聞かせください。

当時、勤務していた学校の校長先生から勧めがありました。

最初に「女性教職員を対象としたミドルリーダー養成研修」の参加を勧められ、学ぶことはとても大事なことと考え参加したのですが、振り返ると、そこから管理職を目指すところに繋がっていったと思います。

ミドルリーダー養成研修の参加を契機に「翌年度は、教務部長はどうか」と副校長先生から話があり、学校運営の一つに大きく関わる新たな経験になるので「とりあえず、やってみよう」と考えました。でも「教務部長を経験した後は、管理職を目指す」という考えはありませんでした。やはり「管理職は大変だろうな」というイメージがあり、自分が管理職という考えは持っていませんでした。

校長先生から管理職を勧めのお話いただきましたが、管理職の大変さや二人の子どもの子育て中でしたので、その時は「自分が管理職として相應しい働きができと思えません」とお伝えしました。加えて、その学校での勤務年数が長くなっていましたので「教諭として転勤を考えています」とお話ししたところ、校長先生から「家庭状況を考えると札幌市内の学校への転勤を希望していると思いますが、それは難しいかもしれません。これを機に管理職を目指してはどうですか」とお話をいただきました。

その校長先生は、先生方からの人望が厚く実践も素晴らしかったので、私も尊敬していたんです。その校長先生からの勧めだったのでミドルリーダー養成研修に参加しましたが、校長先生との出会いがなければ、管理職の道へ進むことはなかったと思います。

新年度になり新しい校長先生が赴任され「時期が来た時には、管理職選考を受検しましょう」と再びお話をいただきました。その際にも「家庭状況を考慮して勤務地が配慮されることもあります」とお話を受けましたので、あらためて様々なことを考えた結果、管理職を目指すことにしました。

仕事の面では、勤務校で既に学級担任を2度経験し、十分やり尽くした感がありましたので、今思えば燃え尽き症候群的になっていたのかもしれない。

そのような私の状況を見ていた校長先生が「私の将来にとって、何が一番いいのか？」を深く考えてくださり、この道に進むことを勧めていただいたのだと、私は感じています。

### 2・管理職になるために必要だった支援は、どのようなことですか？

勤務地に配慮していただいたことは、とても有り難かったです。

当時の家庭状況は、下の子どもが高校受験を控えていましたし、夫は単身赴任で私がほぼ子育てに従事していた状況でしたので、仕事と家庭の両立を図れる環境でなければ仕事を続けることは難しい状況でした。そのようなことから、自校昇任をさせていただいたのだと思います。

「当時勤務していた同僚の先生方にはご迷惑ではないか？」という思いはありましたが、私としてはとても助かりました。また、当時は副校長先生がいて、全ての業務について一から細かく教えていただきましたので、その配慮はとても有り難かったと今も思っています。

### 3・管理職になって気づいたことは、どのようなことですか？

学校運営の膨大さを知りました。

管理職も一般の先生方も「生徒が成長するために」と思って業務に当たっているのは同じですが、例えば教育活動を実施するために必要な予算など、学校運営は様々なことに支えられ進められていることを、管理職になって初めて知りました。

また同時に、自分が今まで多くの方々に支えられ、「その支えの下、一般教員の時は、好き勝手にやらせていただいたんだな」と気づきました。当時のことを振り返ると、感謝の気持ちでいっぱいです。

#### 4・管理職のやりがいや魅力を、お聞かせください。

まだ仕事に余裕がありませんので、自信を持ってお話できることはありませんが、自分の成長に繋がる素敵な出会いが多くなったと思います。

「組織として成果を出すことが管理職の役割の一つ」との思いから、職場がより有機的な組織になるために、日々、より多くの先生方とコミュニケーションを取るよう努めています。また、それによって、教諭の時よりも多くの先生方や、多くの方々とお話をする機会が増えていましたので、転勤する度に、自分の想定外のアプローチで生徒の能力の伸長を図っている先生や、高い寛容性を持って学年運営をされる主任の先生に出会えています。そのような出会いの中で、自分の至らない部分を先生方にサポートしていただくことも多くありますね。

素敵な出会いにより自分を客観的に認識することができて、自分の成長に繋がっていると感じていますし、その点が魅力だと思っています。

#### 5・後輩教職員へのメッセージを、お聞かせください。

ミドルリーダーの先生方も、取り掛からなければならぬことを多数抱えていると思いますが、私は「取り掛かれば心が燃え上がり、続けていけば仕事は完成する」というゲーテの言葉が好きなので、いつもそう思いながら仕事をしています。

「全ては生徒のために」私たちは仕事をしていますので、それを合言葉に共に支え合いながら進んでいけたらいいと思っています。

#### 6・子育てを始める職員に対して、管理職として、どのようなことに気をつけていますか？

今も育児に従事し、育児と仕事の両立の大変さはわかっていますので、子育て中の職員の気持ちに寄り添うように努めていきたいと思っています。

また、子は社会の宝なので、みんなで育てていくという意識を職場が醸成していかなければならないと思いますので、そのことは先生方に伝えています。

管理職になる前の、子育てに関するエピソードをお話します。

上の子どもが小学校3年生で、下の子どもが生まれた時に育児休業を1年取得しましたが、現場復帰後に下の子どもが耳の病気で手術や治療をしなければならない状況がおよそ2年続き、入退院を繰り返していました。

そのため私は、病院から職場に行って授業をして病院に戻るという生活が続き、夫も単身赴任をしていましたので「このまま仕事を続けていくことが、果たしていいことなのか？」「仕事を辞めなければならないのかな？」と迷っていました。

そんな時、ある日のこと、子育てを卒業した大先輩の実習助手の女性の先生に呼び止められ、こう言われたんです。「今は思うように仕事ができなくても、次、その次の学校で、あなたが育児から離れて思うように仕事ができるようになった時に、その学校で「恩返し」ができればいいんだから、今、ここで思うように仕事ができなくても、いいんだよ。今は子どものことを優先しながら、仕事をしていきなさい」。

その頃の私は、育児と仕事の両立でかなり追い込まれていたもので、その言葉が心の支えになりました。

当時、育児をされている職員は少なく、今のように育児に関する制度も充実していなかったもので、正直、職場に迷惑をかけていると認識していましたが、その先生に「ここまで頑張ってきたのだから、辞めないで、乗り切りなさい！」と背中を押してもらったことで、何とか仕事を続けることができたと思っています。

今もその先生とは親交を続けていますが、本当に有り難いお言葉をいただいて、とても感謝しています。

私には育児で思うように働けなかった時期がありましたので、管理職を勤めるお話をいただいた時に最終的にその話を断らなかったのは、「恩返し」の気持ちがあったからだと思います。「恩返し」を次の世代へ繋いでいくことはとても大切なことですし、それを可能にする環境づくりが管理職としてはとても大事になりますね。

今はまだ下の子どもが高校生ですが、今の職場の校長先生や教頭先生は子育てに対する理解がとてもあって、日頃から休める環境をいただいておりますので、安心して勤務することができていますし、その分健康に気をつけて仕事でしっかり貢献しなければならぬと思っています。

#### 7・ご自身が子育てをしている時に、管理職から、どのようなサポートが支えになりましたか？

「その時々でサポートをしていただいていた」と感じています。

子育て支援に対する考え方や言動については、その時の世の中の風潮が影響を与える部分はあったと思いますが、近年は、制度的にも、社会の情勢も、育児に対する風向きも、あたたかくなってきましたので、管理職になってからも子どもの卒業式に出席させていただいたり、子どもの保護者面談も出席することが多いですが、いつも快く送り出していただいておりますので、本当に有り難いなと思っています。

#### 8・インタビューの最後となりますが、お伝えしたいメッセージはありますか？

性別に関係なく潜在的な能力をお持ちの方はたくさんいらっしゃいますが、様々な理由により管理職へ進む気持ちにならない方もいらっしゃると思います。

私たち管理職が生き生きとやりがいのある姿を学校現場で見せることができれば、管理職のなり手がもっと増えていくと思っていますが、今は家庭事情などを配慮をしていただける環境にあると思いますので、能力をお持ちでやる気のある方は、是非、積極的に管理職にチャレンジして欲しいなと思っています。

[インタビュー実施月:令和5年1月]

**インタビューにご協力をいただきまして、誠にありがとうございました。**